

宮城県震災伝承フォーラム

～あの日の経験を これからの防災と未来へ～

日時 令和8年**11月1日(日)**13時～16時30分
12時30分開場

場所 **東北歴史博物館 3階 講堂**（多賀城市高崎1-22-1）

定員 **先着250人**（入場無料）
※申込詳細は裏面を参照

プログラム

主催者挨拶 13:00～13:10

第1部 トークセッション 13:10～14:30

あの日の、自治体職員

自身も被災し、厳しい環境の中で住民の命と暮らしを守るために対応した、沿岸5市町の職員が登壇。

東日本大震災発生時から約半年間、避難所運営、住民への避難の呼びかけ、被災状況の確認、災害対策本部の立ち上げ等、当時の対応を振り返りながら、苦労したこと、判断に迷ったこと、そして現在の災害対応に生かしたい教訓について語ります。

第2部 3.11みやぎ語り部講話 in 歴博 14:35～14:55

語り継ぐ、あの日の記憶 語り部 **高橋 智慧 氏**

みやぎ東日本大震災津波伝承館で毎週土曜日に開催している「3.11みやぎ語り部講話」。震災を経験した語り部が、自身の体験をもとに、あの日に起きたこと、そこから学んだこと、そして未来へ伝え継いでいきたいことを語ります。

第3部 トークセッション 15:00～16:20

震災伝承のこれまでとこれから

東日本大震災の発生から15年。震災を伝える活動を続ける中で感じる「やりがい」や「悩み」。時間の経過とともに変化する伝承のあり方。震災を知らない世代へ、どう伝えていくのか。

語り部、伝承団体、そして若い世代が、それぞれの立場から語ります。

会場アクセス

東北歴史博物館
TOHOKU HISTORY MUSEUM



JR線をご利用の場合

- 東北本線「国府多賀城駅」となり
- 仙石線「多賀城駅」下車 徒歩25分またはタクシー約10分



ポケモン×工芸展
—美とわざの大発見—



(HPへ)

ポケモン工芸展【10/10(土)～12/27(日)】開催のため混雑が予想されますので、公共交通機関をご利用ください。

主催：宮城県 共催：宮城県議会

お問い合わせ：宮城県復興・危機管理部復興支援・伝承課震災伝承班 Tel 022-211-2443 Fax 022-211-3519 E-mail denshod@pref.miyagi.lg.jp

開催趣旨

東日本大震災の発生から年月が経過する中で、震災を経験した人から、経験していない世代へ、「記憶」と「教訓」をどのようにつないでいくのか。発災当時、被災しながらも地域のために奔走した自治体職員。震災の記憶や教訓を語り継ぐ語り部。そして、これから伝承を担っていく若い世代。さまざまな立場から、震災伝承の「これまで」と「これから」を考えます。

登壇者、コーディネーター紹介

第1部 市町職員の皆様



木村 伸(きむら しん)氏
当時 石巻市総務部防災対策課長

東日本大震災当時は、総務部防災対策課長として、発災直後の混乱の中、災害対策本部の立ち上げをはじめとする初動対応に尽力。平成26年度に産業部長で退職後、平成27年度から令和元年度まで危機対策課事業推進官として、防災の啓発や後進の育成などに携わった。



小野寺 憲一(おのでら けんいち)氏
当時 気仙沼市保健福祉部社会福祉事務所児童福祉係長

平成元年気仙沼市役所入庁。主に福祉、財政、まちづくりを担当。東日本大震災で自宅は全流失。震災後、保育所の再建、仮設住宅入居調整、震災関連死認定等の業務に当たる。平成24年4月から震災復興・企画課。復興事業とともに市民が主役のまちづくり「気仙沼まち大学構想」を推進。令和7年4月から総務部長。



西城 卓哉(さいじょう たくや)氏
当時 名取市健康福祉部保険年金課主事

平成18年4月名取市役所入庁。震災当時は避難所運営に当たるほか、被災者の国民健康保険税の減免や医療費の一部負担金免除等の業務を担当。現在、企画部政策企画課で行政管理・行政改革業務を担当。震災の記憶・経験・教訓を含め、復興の歩みをまとめた震災復興記録誌の作成にも携わった。



小山 修(おやま しゅう)氏
当時 東松島市総務部行政経営課行政経営班長

昭和57年4月旧矢本町役場(現東松島市)入庁。主に財政課、総務課に勤務。平成23年4月総務部市民協働課長、平成26年4月教育次長、平成29年5月復興政策部長、平成30年4月総務部長、平成30年7月副市長等歴任。令和5年4月から(株)東松島観光物産公社代表取締役。



高橋 一清(たかはし かずきよ)氏
当時 南三陸町産業振興課観光振興係長

昭和54年志津川町役場(現南三陸町)入庁。平成23年4月保健福祉課長補佐として被災者の生活支援に従事。平成24年1月産業振興課参事、産業振興課長、総務課長等を歴任。令和3年4月から南三陸町東日本大震災伝承館「南三陸311メモリアル」の開設に尽力。同年10月開設。令和8年4月から同館館長。

コーディネーター

東北大学災害科学国際研究所 准教授 佐藤 翔輔(さとう しょうすけ)氏

京都大学大学院情報学研究科博士後期課程修了。博士(情報学)。専門は災害伝承、災害情報、防災・減災に関する啓発など。2011年4月から東北大学に着任する予定が、東日本大震災が起きたことをきっかけに前倒して発生翌日より着任。現在、宮城県内の自治体をはじめ、災害メモリアルに関する委員・アドバイザー等を務める。



第3部 伝承活動をされている皆様



高橋 智慧(たかはし ちえ)氏
会社員

名取市閑上地区出身で、高校2年生(17歳)の時に震災を経験しました。現在は仙台市内の会社で勤務しており、会社の先輩の紹介で令和7年8月より語り部として活動を始めました。将来の進路を決める時期に被災をしたことで、何を感じどのような選択をしたのかをお伝えできればと思います。



黒澤 健一(くろさわ けんいち)氏
がんばろう！石巻の会 事務局長

宮城県石巻市を拠点に、東日本大震災の追悼・震災伝承・防災活動に取り組んでいます。「がんばろう！石巻」看板の設置・継承をはじめ、3.11のつどい、語り部活動、震災伝承教育などを展開。石巻南浜津波復興祈念公園の市民参加型運営や、次世代への記憶と教訓の継承にも力を注いでいます。



山縣 嘉恵(やまがた かえ)氏
SAY'S東松島 代表

仙台市出身。結婚を機に平成10年から鳴瀬町(当時)の野蒜地区に移住。東日本大震災により、自宅が流失し、6年4ヶ月の市外での仮住まいを経て平成29年7月から東松島市内の高台の防災集団移転団地に再建した自宅です。家族は無事でしたが当時の避難行動の反省も伝えています。



西城 遥斗(さいじょう はると)氏
宮城大学

みやぎ東日本大震災津波伝承館解説員。小学生頃から防災に関心を持ち、中学生時に防災分野の資格を取得。高校では、県内の学生伝承者と交流するプログラム「みやぎ中学生・高校生震災伝承プロジェクト」を開催しています。現在は、新たな伝承プロジェクトの開催に向け活動中。



中島 知聖(なかしま ちせ)氏
東北大学SCRUM

東北大学 SCRUMから参加します中島知聖と申します。私たちは、被災された方や伝承施設との関わりを通して、震災の記憶を学びながら伝承活動を行っております。活動を行う中でのやりがいや葛藤を共有しつつ、私たちだからこそできる伝承をチームで目指しています。

参加申込方法【申込期限：令和8年10月29日(木)※】

宮城県震災伝承フォーラム 参加申込書

ご所属(一般又は会社名)

お名前・ふりがな(複数の場合代表)

ご住所(市町村名まで)

ご連絡先(メール又はFAX番号)

参加人数

◆電子申請(LoGoフォーム)でお申込みの方

URL <https://logoform.jp/form/GQGB/1783364>

◆メールまたはFAXでお申込みの方

左記の宮城県震災伝承フォーラム参加申込書に記入の上、下記宛でお申込みください。

E-mail denshod@pref.miyagi.lg.jp

FAX 022-211-3519

※受付は先着順となります。申込多数の場合は、受付を締め切らせていただく場合がございます。

※申込を済ませた方への返答は行いませんので、当日会場受付までお越し下さい。

